

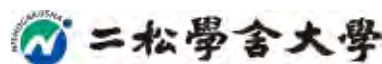
CHINESE MANAGEMENT & MARKETING SCHOOL

—華人経営研究 CMMS—

中国・華人圏 ビジネスの本質

大きく変容する中国、
そのリスクとチャンスを読み解く！

主催



後援

日本貿易振興機構(JETRO)
日本商工会議所
東京商工会議所

第20期

2026年6月~10月(8月休講)
毎週木曜日 19:00 - 20:30 予定

全講座オンライン・オンデマンド視聴可

〈第20期記念講演開催決定!〉

中国経済は回復できるか、日中関係悪化の行方。

東京財団 主席研究員 柯隆氏

CHINESE MANAGEMENT AND MARKETING SCHOOL

— 華人経営研究 —

開講の主旨と狙い

世界第2位の経済大国に上り詰めた中国、しかしながらここ数年、不動産市況の悪化を切掛けとした経済状況の低迷が続いており、その回復の兆しが見えてきていません。また、地政学的な緊張関係も高まっており、トランプ関税を含めた貿易摩擦、米中の覇権争いなど不透明な状態が続いています。その様な中、日中関係もかつてとは大きく異なっており、それは中国ビジネスを行う日本企業にも大きな影響を及ぼしています。日本香港協会では、中国経済を動かす「華人経営」即ち中国古来の思想を底流に持つ経営の本質を解明する目的で、2003年より関西日本香港協会と香港大学の共催により「華人経営研究講座(CMMS)」をスタート。2018年からは、中国とゆかりの深い二松学舎大学と当協会の共催となり、今回は節目となる第20期を迎えます。本講座のカリキュラムは、理論編と実践編から構成され、理論編では華人社会の基礎概念を歴史・思想・社会学等から抽出して学習し、華人の経営原理の理解を深めます。一方、実践編では、現在の中国経済の実態、華人の経営行動や中国における事業リスク、また香港コネクション編として、香港を通して見た中国ビジネスのリスクとチャンスも解説します。当協会は、本講座を通して、現在の中国・華人圏ビジネスに柔軟に対応できる人材の育成の一助となることを目指しています。

ご挨拶



日本香港協会 会長
佐藤 征洋 氏

日本香港協会は北海道から沖縄まで国内主要11都市に設立され、約1,100名の会員を擁して日本と香港の間の経済、文化面で交流の輪を広げることを目的として活動しております。当協会は香港を介した中国やその他各国とのビジネスの促進、ビジネスセミナー、語学教室、学生交流、文化交流等のイベントをとり進める事を活動範囲としております。

このような協会の重要イベントの一つとして当協会は二松学舎大学と共同主催で、「CHINESE MANAGEMENT & MARKETING SCHOOL(CMMS 華人経営研究講座)」を長年運営してきており、今回で第20期を迎えます。国内の著名な大学教授が中国古来の伝統と思想の根底を講義、解説し、中国・華人とのビジネス経験豊富な講師が最近の中国、香港の現状をも分析、華人の底流にある考えや行動様式を説いて、受講生からは大変好評を博しております。

中国大陸やアジアその他の国々の華人と関わる方々には是非この講座を受講いただき、大きく変容する中国の現状を把握すると共に、その根底に流れる華人の思想・考え方を学び、中国を相手にビジネスに取り組む際のリスクとチャンスについての、正確な理解を深めて頂きたい所存です。当講座は、ますます不確実性が高まる中国・華人圏のビジネスでの有効な道しるべの一つとなるものと考えます。尚、当協会は香港貿易発展局が事務局を務める香港ビジネス協会世界連盟(世界36ヶ国・地域に設立されている47の協会)に属しており、当協会の会員は香港で毎年12月初旬に開催される香港フォーラムに参加が可能です。世界各地から参加する数百名の海外会員と交流を深め、最新の中国、香港、アジアその他の国々とのビジネス情報を得ながら人脈を作ることができ、まさにアジア、その他世界の国々の経済で華人ネットワークが大きな役割を担っていることも実感できます。当講座を受講の上、会員になっただけならばこのような特典もありますので、是非とも積極的に受講をご検討の程お願い申し上げます。



二松学舎大学 学長
佐藤 晋 氏

二松学舎大学は、1877(明治10)年に、漢学者であり明治法曹界の重鎮でもあった三島中洲が、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」という建学の精神を掲げ、九段の地に漢学塾二松學舎を創立したことに始まります。漢学塾は1928(昭和3)年に中等学校の国語科教員を養成する専門学校となり、1949(昭和24)年に新制大学に移行しました。

現在は、文学部及び国際政治経済学部2学部を擁し、創立以来147年以上の歴史を持つ大学として教育研究に当たっており、文学部の国際日本・中国学科においては、中国古典文学や思想をその教育研究領域の核としつつ、中国や東アジアの文学や文化、中国語や韓国語、日本漢学などの教育研究を通した人材育成に努めています。さらに、中国の大学との学術交流も積極的に行っており、北京大学や浙江工商大学をはじめとして教員交流・学生交流の協定を締結している大学や大学院約30校との交流を行っています。また、本学国際政治経済学部では2018(平成30)年に国際経営学科が開設され、大学院国際政治経済学研究科国際経営専修ともども日本企業の中進出事例やアジアにおける華人経営企業の事例を取り上げています。

そうした中国や東アジアに関する教育研究の知見を有する本学と日本香港協会とが共催して開講する「華人経営研究講座(CMMS)」は、理論と実践の両面から、中国・華人圏ビジネスの世界で活躍できる人材を育成するための有意義な講座です。この講座の受講によって、中国古来の思想や文化を底流に持つ華人経営の本質や実情を理解し、同圏におけるビジネスにおいて更なるご活躍に繋がるよう祈念しております。

本スクールで醸成するスキル

1

華人・中国人の
企業組織行動、
経営行動の
深層構造を解明

2

中国事業リスクの
発生原因解明、
対リスク
予見性向上

3

チャイニーズ
・スタンダード
(行動規範)
定義・構造解明

4

華人圏、
対中ビジネスに
適応する
人材を育成

●受講者からのコメント

中国人の考え方と、日本人の考え方で、どのような違いがあるのかを歴史および現場の経験から教えていただきたいと考え本講座を受講しました。

過去の自分の経験から持っていた中国観と合致する部分もあれば、今回の講義を通じ新しく知った側面も多くあり非常に参考となりました。これまで財閥や政府の方とお仕事をしたことはなかったので、講義を通じそのような経験を聞かせて頂けたことも大変勉強になりました。理論編、実践編を通じ、多種多様な講師の方々が、それぞれ異なった視点で中国を解説してくださり、改めて多面的に中国を知ることができました。

東レインターナショナル 板橋 大也 氏 (2025年度修了)

上海駐在が決まり、中国につき一般的な基礎知識から最新の状況まで知りたいと考え本講座を受講しました。

理論編、実践編を通じ、中国の過去を学ぶと共に、最新の状況まで知る非常に良い機会となりました。大きく変わり続ける中国について、従来の中国観にとらわれることなく、新しい世界観が広がりがつつあることも理解出来ました。中国古典における考え方から、現在の中国ビジネスでのリスクマネジメントに至るまで、幅広い領域をカバー頂き、中国における古今東西を網羅的に学ぶことが出来、非常に有意義でした。

上海住友商事有限公司 東アジア事業開発グループ長 原 大 氏 (2025年度修了)

受講前の感想

これまで中国事業に長年携わった経験・知見を踏まえ、更に文化・歴史的内容を常識として網羅的に習得したかった。

受講後の感想

中国の先行きが懸念される中、中国本土以外の中国人社会に注目する必要があり、特に台湾・東南アジアは日本にとっても大事な地域だと認識した。全ての講義が興味深く、多層的・重層的な講義もあり満足している。

実務翻訳者 栗林佳紀 (2024年度修了)

主催団体紹介

〈日本香港協会〉

日本香港協会は日本と香港の文化・経済・社会面で交流の輪を広げることを目的に民間の任意団体として、1988年に東京に設立されました。1989年以降、関西・中部・九州・山形・北海道・宮城・沖縄・広島・新潟・高知と各地に協会が設立されるに至り、これら日本全国各地に広がる協会活動をサポート・コーディネートする目的で、2008年には全国連合会が発足しました。なお、東京に設立された協会は2002年に特定非営利法人となっています。

香港ビジネス協会世界連盟 (Federation of Hong Kong Business Associations Worldwide) は、世界36ヶ国・地域に設立されている47の協会を統括する非営利組織として2000年に発足、香港貿易発展局が事務局機能を担っています。香港ビジネス協会世界連盟は、合計11,000人以上のメンバーが所属する国際ネットワークで、主たるメンバーは香港・中国や中華圏と強力なコネクションを有するビジネス関係者です。

日本香港協会は香港ビジネス協会世界連盟の一員ですので、日本香港協会に入会されると、自動的に香港ビジネス協会世界連盟のメンバーとしても登録され、様々な交流イベントに参加することができます。

〈二松学舎大学〉

二松学舎大学は、1877(明治10)年10月10日、漢学者であり明治法曹界の重鎮でもあった三島中洲が、現在の大学九段キャンパスの地に漢学塾二松学舎を創立したことに始まります。三島中洲は、明治期の文明開化による西欧文明偏重の風潮の中にあって、東洋の精神や文化を学ぶことの大切さを説き、日本人として自己を確立するとともに、社会に貢献できる人材の育成を目指しました。

現在は、文学部[国文学科・国際日本・中国学科(旧中国文学科)国際政治経済学部[国際政治経済学科・国際経営学科]、大学院文学研究科[博士前期課程・後期課程/国文学専攻・中国学専攻]、国際政治経済学研究科[修士課程/国際政治経済学専攻]、国際日本学研究科[修士課程/国際日本学専攻]の2学部6学科、大学院3研究科4専攻のもと、三島中洲の「育英」の志を引き継ぎ、東洋文化への理解と言葉の力を礎に、社会に貢献する人材育成に努めています。

2027年10月10日には創立150周年を迎えます。今後も、多様化する社会の要請に応えるべく、教育研究機関としての機能強化・人材育成に邁進していきます。

第20期 記念講演

中国経済は回復できるか、日中関係悪化の行方。

2026年5月28日(木) 19:00~20:30

中国経済は減速が続いている。不動産不況が長期化しており、期待されている電気自動車の生産販売も減少に転じている。習近平政権は4期目の続投に向けて経済回復に力を入れているが、起死回生策があるのだろうか。一方、日中関係は「高市首相の台湾有事は日本有事」の発言をきっかけに悪化している。日中関係は改善する可能性があるのだろうか。

まずは文化や思想の異なる相手を知る
当代一流の教授陣が講義します

中小企業、ベンチャー、大企業の海外事業に携わる皆さまへ。
「理論編」では、古代から現代まで思想文化と歴史を概観し、
そこから派生した「国情」「中国思想」「戦術」のパラダイムから解明します。
それにより、中国人特有の“関係”“面子”“人情”の本質に迫ります。

理論編



北九州市立大学
大学院 教授
王 効平 氏



東京大学 大学院
人文社会系研究科 教授
小島 毅 氏

国情



東京大学
東洋文化研究所 特任教授
園田 茂人 氏



慶応義塾大学
名誉教授
高橋 伸夫 氏

中国思想



二松学舎大学
文学部 教授
牧角 悦子 氏

戦術



大阪大学名誉 教授・
立命館大学白川静記念
東洋文字文化研究所 所長
湯浅 邦弘 氏

孫子・韓非子・三国志



早稲田大学
常任理事・文学学術院 教授
渡邊 義浩 氏



東京財団
主席研究員
柯隆氏

中国南京市生まれ。88年 留学のため来日。92年 愛知大学法経学部卒業。94年 名古屋大学大学院経済学研究科修士(経済学)。同年 長銀総合研究所国際調査部研究員、98年 富士通総研経済研究所・主席研究員等を経て、2018年 現職。静岡県立大学グローバル地域センター特任教授、多摩大学大学院客員教授を兼務。「中国不動産バブル」(文芸新書、2024年)ほか著書多数。

実践編

次に中国・華人圏ビジネスの実体を知る

「実践編」では、中国市場や華人経済圏に精通した専門家が、長年に亘り培われた知見、現場経験から中国・華人圏ビジネスの実体はどう向き合っていけば良いのか、分かり易く分析、解説します。



野村資本市場研究所
シニアフェロー
関志雄氏



NPO法人
日本香港協会
前事務局長
福井一氏

事業経営 戦略



甲南大学
名誉教授
杉田俊明氏



みずほフィナンシャルグループ
みずほ銀行
中国営業推進部 シニアフェロー
手嶋徹也氏

経済分析



日中経済協会
理事・総務部長
高見澤学氏



日本貿易振興機構(JETRO)
香港事務所長
杉山玲子氏

香港 コネクション



香港貿易発展局
東京事務所長
伊東正裕氏

リスクマネジメント



日中投資促進機構
代表理事・事務局長
岡豊樹氏


特別講義



早稲田大学
法学学術院 教授
萬歳寛之氏

モデレーター：NPO法人日本香港協会 中江隆比古 / 内貴淳史

理論編 第1回～第8回

開講回	日程	講義内容	講師紹介
第1回 	6月4日(木)	華人論「華人企業の経営構造」 華人経営に於ける起業家精神、戦略立案、企業統治、財務構造、資本調達の特徴を学ぶ	王 効平 氏 北九州市立大学 大学院 教授 同中華ビジネス研究センター長 九州大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、経済学博士号取得。北九州市立大学経済学部准教授を経て、00年教授。11-17年大学院マネジメント研究科長、14年中華ビジネス研究センター長、現在に至る。専門：国際経営学、比較経営学。
第2回 	6月11日(木)	中国人論 「関係(グアンシ)で読み解く中国社会」 現代華人・中国人の深層心理の源泉とその行動規範の特異性を学ぶ	園田 茂人 氏 東京大学 東洋文化研究所 特任教授 東京大学文学部助手、中央大学文学部教授、早稲田大学大学院アジア太平洋研究所教授、東京大学東洋文化研究所教授などを経て26年より現職。東京大学副学長歴任。専門はアジアの社会階層比較、日系企業のアジア進出と文化の変化など。
第3回 	6月18日(木)	中国政治「中国の政治体制を考える」 中国政治の特質と課題の本質を論じ、国情とは何かを学ぶ	高橋 伸夫 氏 慶應義塾大学 名誉教授 84年筑波大学院地域研究科修士課程修了、87年慶應義塾大学院法学研究科博士課程取得、98年同助教授、05年教授。中国の現代政治制度への造詣が深く、定期的に中国の大学へ学生を連れてゆき学術交流している。著作に「構想なき革命—毛沢東と文化大革命の起源」慶應義塾大学法学研究会、2025年(檜山純三賞受賞)「中国共産党の歴史」慶應義塾大学出版会、2021年(大平正芳記念賞特別賞受賞)など。
第4回 	6月25日(木)	戦術「孫子と兵法三十六計」 中国の戦略的思考の源泉を兵法『孫子』と『三十六計』の中に探り、あわせて中華外交の基本的特質を伝統的な思想や古典の中に見だし、チャイナリスクへの対応について考える	湯浅 邦弘 氏 大阪大学 名誉教授 立命館大学 白川静記念東洋文字文化研究所 所長 大阪大学大学院修了、博士(文学)、専攻は中国思想史。著書に『孔子は、いかにして「神」になったのか』(NHK出版新書)、「中国思想の基礎知識」(KADOKAWA)、「孫子・三十六計」「荀子」「貞観政要」(角川ソフィア文庫)、「諸子百家」(中公新書)、「中国思想基本用語集」(ミネルヴァ書房)など多数。
第5回 	7月2日(木)	戦術・政術「荀子と韓非子」(法家) 中華の法治システムが形成されていく過程を戦国時代の『荀子』と『韓非子』の中に探り、また、古代の家訓書にも注目して、華人組織の行動原理がどこにあるのかを明らかにする	
第6回 	7月9日(木)	三国志「三国時代の国際関係」 中国史上初めて、三人の天子(天下の支配者)が即位した三国時代は、周辺の異民族とどのような国際関係を構築していたのか。それらの異民族の中には倭人、すなわち卑弥呼の邪馬台国が含まれる。「魏志倭人伝」について自身の学説も紹介。	渡邊 義浩 氏 早稲田大学 常任理事文学学術院 教授 62年東京都生まれ。文学博士。学校法人大隈記念早稲田佐賀学院長。専攻は「古典中国」学。著書「後漢国家の支配と儒教」「三国政権の構造と名士」「三国志よりみた邪馬台国」など多数。
第7回 	7月16日(木)	中国思想史「中国の天の思想と自然観」 中国に特有な天の思想から日中の自然のとらえかたの差異を解説する	小島 毅 氏 東京大学 大学院 人文社会系研究科 教授 87年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了、東京大学東洋文化研究所助手、徳島大学総合科学部助教授を経て、96年東京大学大学院人文社会系研究科助教授。現在は東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は中国思想史(儒教史、東アジア王権論)
第8回  	7月23日(木)	中国思想「儒教と現代」 中国の社会と文化における儒教思想の役割その歴史の変遷と現代における再評価を考える	牧角 悦子 氏 二松学舎大学 文学部教授 文学博士 九州大学大学院文学研究科中国文学専攻、同大学院博士後期課程中退、01年二松学舎大学教授、10年「聞一多研究」で京大文学博士、現在東アジア学術総合研究所陽明学研究センター長、日本聞一多学会代表理事、日本中国学会副理事長・日本儒教学会副会長、三国志学会副会長

※ 講義時間は19:00~20:30(日本時間)

※ 日程及び講師・講義内容は変更の可能性がありますので、予めご了承ください。受講者には事前通知いたします。



録画視聴可
(オンデマンド)



対面・オンライン併用による
ハイブリット形式の講義

実践編 第9回～第17回

開講回	日程	講義内容	講師紹介
第9回 	9月3日(木)	経済分析「中国経済の現状と展望」 景気の低迷、潜在成長率の低下、米中対立の常態化を踏まえ中国経済の現状と課題について解説する	関志雄氏 野村資本市場研究所 シニアフェロー 東京大学経済学博士、86年香港上海銀行本社経済調査部エコノミスト、87年野村総合研究所入社、経済調査部主任研究員、経済調査部アジア調査室長を経て01年独立行政法人経済産業研究所上席研究員、04年から現職。
第10回 	9月10日(木)	事業経営戦略I 「グローバル化する華人ネットワーク」 日本企業はどう対応すべきか？	杉田俊明氏 甲南大学 名誉教授 商社、コンサルタント会社を経て甲南大学経営学部教授、現職に。中国・中山大学管理学院MBA客座教授、台湾・東海大学管理学EMBA客座教授、NHKラジオ中国語講座応用編とビジネススクールコーナー担当などを歴任。東京都出身。13年間の北京を含めて中華圏地域での通算滞在は25年を超える。
第11回 	9月17日(木)	事業経営戦略II 中国における事業活動の経験から見た今後の事業展開についての示唆	福井一氏 NPO法人 日本香港協会 前事務局長 80年一橋大学商学部卒業、住友商事入社、80年代到北京駐在二度、98年香港駐在、05年在広東省惠州事業会社副総経理、13年在江蘇省昆山事業会社総経理を経て18年退職、中国関連コンサルタント会社代表、日本香港協会事務局長(24年6月退任)
第12回 	9月24日(木)	事業経営戦略III 「金融機関の視点からの香港ビジネス」 日系企業の中華圏進出に際し、重要となるポイントや留意点を、現地ビジネス経験から得た知見などをもとに解説。	手嶋徹也氏 みずほフィナンシャルグループ みずほ銀行 中国営業推進部 シニアフェロー 89年現みずほフィナンシャルグループ入行。香港大学への留学を経て、上海・香港・北京に駐在し支店長・副行長などを歴任。21年からはみずほ銀行中国営業推進部部長として日中間の企業取引や金融支援を主導。25年より現職。
第13回 	10月1日(木)	リスクマネジメントI 日系企業のビジネス環境に対するリスクマネジメントを解説する	高見澤学氏 日中経済協会 理事・総務部長 87年筑波大学大学院地域研究研究科修士課程修了、日中石油開発株式会社勤務を経て、00年10月日中経済協会入会。21年7月理事就任、調査部長、事業開発部長、業務部長などの兼務を経て25年10月より現職。主に中国のエネルギー及び環境政策・動向を通じて中国経済、日中経済関係を分析。主な著書に、「中国の知恵と日本の伝統が民を済うー崩壊する虚構経済からの脱却」リプロ(単著)、「新時代の能源フロンティアー初めて語る日中石油・エネルギー協力の真実」リプロ(単著)等。
第14回 	10月8日(木)	リスクマネジメントII 「最新の国際情勢を踏まえた事業リスク戦略分析」 日中情勢、欧米・東南アジアと中国の経済関係、中国企業の対日投資を背景として日本企業の事業戦略やリスクの所在を考える	岡豊樹氏 日中投資促進機構 代表理事・事務局長 86年神戸大学卒業、現みずほ銀行入行、北京・上海・香港に勤務、執行役員(行長・董事長)後、みずほ銀行理事、日中投資促進機構代表理事・事務局長。南開大学・大連外大学等客員教授を兼務。
第15回	10月15日(木)	香港コネクションI 香港の価値と行方 ~ビジネスハブとして、売り先として~	杉山玲子氏 日本貿易振興機構(JETRO) 香港事務所長 93年にJETROに入構。シンガポール、ニューヨークに駐在、企画部海外事業所運営課長、ジェトロ大阪本部次長を経て24年9月より香港に駐在。
第16回 	10月22日(木)	香港コネクションII 大湾区・RCEP・大中華圏における香港の機能と役割	伊東正裕氏 香港貿易発展局 東京事務所長 85年味の素入社、台湾、香港、広州、上海駐在を含め、約14年にわたり中国関係の業務に従事、06年香港貿易発展局マーケティングマネージャー、07年東京事務所次長、12年大阪事務所長を経て、18年から現職。英国レスター大学経営学大学院修了(MBA)、関西、中京、高知、東京の日本香港協会の理事を歴任。
第17回 	10月29日(木)	特別講義 日中関係ー戦略的互恵関係と安全保障ー	萬歳寛之氏 早稲田大学 法学学術院 教授 95年早稲田大学法学部卒業、研究テーマ:「国家の国際違法行為責任」(16年 安達峰一郎記念賞受賞) 国際法研究会委員(外務省国際法局)

孫子曰く、、

彼れを知り己れを知らば、百戦して殆うからず。

彼れを知らずして己れを知らば、一勝一負す。

彼れを知らず己れを知らざれば、戦う毎に必ず殆うし。



●事務局

NPO法人 日本香港協会

〒102-0083

東京都千代田区麹町3-4-5

トラスティ麹町ビル6階

香港貿易発展局東京事務所内

TEL 03-5210-5870

